

nouvelle Fontaine

vol. 33

発行日 2011年11月5日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

総合文化の発信拠点 としての役割



岸和田市立浪切ホール 館長 近松 健二

このたび岸和田市立浪切ホールの館長に就任いたしました、近松と申します。日頃は当館の事業にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

ご存知のように、浪切ホールは、大阪府最大級かつ二本の花道を持つ1500席の大ホールと、全国的にも特徴的な施設「祭りの広場」を併せ持つ市民文化ホールです。また、だんじり祭りのハイライト「カンカン場」に隣接する、「祭都きしわだ」の象徴的な施設という重要な役割も担っています。

本年4月より、浪切ホールはJTB・南海グループが初の民間による指定管理者となりました。

わたくしたちに与えられた使命は、岸和田市の総合文化の発信拠点としての役割と、周辺地域の活性化を牽引することにあると考えています。

その実現のためには、市民の皆さまや地域に、“浪切ホールの存在意義”を示していく事業を展開することも大きな役割であると考えています。先日、自主文化事業として、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の金管奏者による演奏会を開催しました。併催企画として、市内の中学・高校吹奏楽部の生徒さんたちを対象に、楽団員から直接レクチャーを受ける「クリニック」を開催し大変好評をいただきました。楽団員と生徒さんとのコミュニ

ケーションでは、岸和田市国際親善協会のボランティア通訳の皆さまにご協力いただき、緊張する生徒さんたちもリラックスできたようでした。

今後も引き続き、感動と未来を育む文化の拠点として、質の高い公演の企画や、地元演奏家やアーティストとのコラボレーションなど、市民参加型の事業を積極的に展開してまいります。

日々の施設運営面では、「公の施設」であることを基本とし、公平性・平等性を確保するとともに、お子さんやご年配の方、障がいをお持ちの方、外国人の方々など、さまざまな利用者にとって快適で安全にご利用いただけるよう管理運営に努めます。

また、地域の文化ネットワーク・情報センターとしての機能を充実させ、賑わいあふれる施設と市民の皆さまに気軽に活用していただける環境を創造していきます。

浪切ホールは、岸和田を愛する皆さまの熱い想いの象徴です。

わたくしたちは岸和田市の文化振興を担う良きパートナーとして、文化・芸術・産業・教育・人をつなぎ、未来へつなぐ事業を展開してまいります。

今後ともなにとぞご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

文人画家

「日根 対山」



日根対山筆「童遊図」より一部

岸和田文化事業協会は今年度10周年を迎えるに当たり、記念事業の一つとして「岸和田ゆかりの画家 日根対山・小川翠村展」を開催します。そこで今回は、この二人の画家をご紹介します。

文人画家の日根対山（1813～1869）は、日根郡中庄村湊（現泉佐野市）に生まれました。同郷の豪商里井浮丘に画才を見出されてその支援を受け、若くして京都に出て学びます。最初に手ほどきを受けたのが岸和田藩の狩野派の絵師桃田栄雲かと言われていいます。後には浮丘との交流の深い大阪の文人画家岡田半江から、また書を京都の貫名海屋に学んだとも言われますが墓誌銘に「天賦の画才があり、誰に学ぶこともなく一家をなした」旨が書かれており、はっきりはしません。山水画を得意とし幕末期の文人画の第一人者として活躍し多くの作品を遺しました。

小川翠村（1902～1964）は、泉南郡日根野村（現泉佐野市）に生まれました。

1920年18歳で岸和田中学（現岸和田高校）を中退し、京都の西山翠嶂の画塾・青甲社に入門。この年第2回帝展に出展し初入選を果たします。生涯京都に住み帝展、文展、戦後の日展に出品を続けました。その才能は「西山塾の四天王」とも言われ、30歳代にして大阪四天王寺の障壁画や、明治天皇記念館壁画といった公的な制作を依頼されています。登場期の画風は大正の浪漫趣味の濃いものでしたが、やがて花

日本画家

「小川 翠村」



小川翠村筆「白鷺」より一部

鳥画、歴史人物画、風俗人物画を描き更に故郷泉南や南紀に取材した風景画にまで筆を進めます。当時の新聞や雑誌では謙虚で勉強熱心な人柄が度々伝えられています。制作幅の広さは時代の美術状況と自らの才能の幅を見定めて着実に歩を進めていったものと言えます。「岸和田八景」や「和泉八景」のように郷土の風景を数多く描き残しています。

1936年34歳の時、泉州の名士有志が翠村会を結成し翌年、自泉会館にて46点の作品を集めた翠村会の第1回展覧会が開催されるなど、岸和田市との縁がとても深い画家です。

この度、対山及び翠村作品の多くを蒐集された所蔵家のご協力を得て、展覧会を開催できるとなりました。岸和田にゆかりの深いお二人の画家の作品をこの機会に是非ご鑑賞ください。

前期 日根対山展

平成24年1月9日(月・祝)～15日(日) (1月10日は休館日です)
午前10時～午後5時

後期 小川翠村展

平成24年1月25日(火)～29日(日)
午前10時～午後5時

会場 自泉会館展示室

講演会

平成24年1月9日(月・祝) 自泉会館ホール
午後2時～3時 「日根対山の作品と足跡」
大阪経済大学教授 長田 寛康
午後3時～4時 「小川翠村の画業について」
兵庫県立近代美術館学芸員 西田 桐子
(お申込・お問合せは岸和田文化事業協会事務局まで)
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

入場料 無 料(展覧会・講演会とも)

岸和田文化事業協会

理事さん

リレーエッセイ



■美術館・博物館巡りをして

副会長 行 龍男

定年退職したとき、現役の頃から夢であった日本全国の国立・都道府県立・政令指定都市立の美術館・博物館巡りを計画しました。

美術館や博物館は日本全国どこへ行ってもたいした違いがないじゃないかと、いろんな人から言われましたが、ところが違うのです。色々なものを見て、その文化の違いを体験したいと思ったのです。

手始めに東北地方から。一番印象に残っているのが、近畿地方ではまず見るできない、壁一面に展示された縄文時代の火焰土器、圧倒されました。中央の美術館よりも地方の美術館の方が、その地方出身者の絵画が多く収集されており、思わぬ発見があって訪館して良かったと思いました。

私自身絵巻物に少なからず興味を持っており、埼玉県立博物館の太平記絵巻、宮内庁三の丸尚蔵館の小栗判官絵巻、五島美術館・徳川美術館の源氏物語絵巻、林原美術館の平家物語絵巻等々胸をときめかせながら入館しました。

美術館では館所蔵作品の常設展示は勿論、市民の作品展がよく催されています。これが楽しいのです。上手下手は別として生き生きとした作品が楽しめます。

近年気になることは、博物館や美術館の展示に勢いがなくなり、施設が老朽化していることです。経費削減の波が文化の拠点にまで押し寄せているのかと思うと非常に残念です。あと5～6館でこの旅も終わりにになります。

「大好きな岸和田」

歴史を伝えられる広報部会員に

理事 小島 栄子



今から4年前の8月、文化庁の委託で行われた(財)伝統文化活性化国民協会の「伝統文化こども教室」。初めて狂言を観る娘と行った場所は杉江能楽堂でした。岸和田に引っ越しをして来て10年余り。岸和田といえば「だんじり祭り」「お城」そして二の丸公園の「お猿？」このようなすごい能楽堂があるとは！さすが歴史と伝統の町「岸和田！」と感動したことを思い出します。その時初めて岸和田文化事業協会の存在を知り、以降何度か催し物などで自泉会館にも行く機会がありましたが、私には縁のない協会だと思っていました。それが今年会員に、その上よもや理事になろうとは！こういうことを「足下から鳥が立つ」というのでしょうか。自分でも驚いています。

私は幼い頃から父の転勤などで各地を転々としてきました。

短くて半年、長くても6年です。そう思うと今年で16年目になるこの岸和田市が私の故郷になるのだと思います。

私は西大路町に住んでいます。町にある弁財天は関ヶ原の夏の陣の折、落城する大阪城から大路源左衛門の息子源平衛が救い出してこの地に祀ったという言い伝えがあり、今も毎朝欠かすことなく町の人が御膳をお供えています。

現在岸和田市には約140の町があります。広報部会の一人として、これからいろいろな町の歴史やゆかりの人を辿っていくことができると思うととても楽しみです。

「カーネーション」の放映で全国の注目を集めている岸和田。これからもどんどんアピールができる広報部会員として頑張ります。

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第4回 神須屋町諏訪神社跡から矢代寸神社に至る

毎回ご好評をいただいている「岸和田慢歩」。今回は有真香郷と呼ばれた地域の一部、神須屋町内から矢代寸神社までをめぐり、秋の風景が楽しめるコースを紹介します。

理事 藤田保平・齒黒猛夫



⑦ 地蔵堂



⑥ 玉葱頭彰碑



① 諏訪神社跡



② 夜星



③ 三叉路の地蔵



⑤ シンベさん



④ 行遇堂



⑥ 玉葱頭彰碑

明治15年頃、玉葱栽培を始めた坂口平三郎の頭彰碑。以降、先週一帯で玉葱栽培が盛んとなり、泉州の名産となった。

⑦ 地蔵堂 土生町第2会館の近くにある地蔵堂。

⑧ 矢代寸神社

一宮矢代寸神社と呼ばれ、有真香郷の氏神。創建は継体天皇元(503)年とされる古社で、当地に移住した波多氏が祖神を祀ったのが始まりとされている。式内社。

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。



スタート地点は、岸和田港塔原線から少しだけ住宅街に入ったところにある「諏訪神社跡」の公園から。少し歩くとガードレールの向こうに、草に覆われた「夜星」が見えます。そのまま道なりに進むと、三叉路の角に小さなお地蔵さんが。右に曲がり、新興住宅地を進んで左折し、広い道との交差点を左折すると「行遇堂」が見え、その裏手には「シンベさん」があります。
広がる風景を楽しみながら山側に進み、新しい住宅の角を左折し、まっすぐ進むと先ほどの「三叉路地蔵」から延びた道に到着。旧家が並ぶ道を進んで岸和田港塔原線を越えたところにあるのが、本紙でも過去に紹介した「玉葱頭彰碑」。幹線道路を避けて左に入った路地を進むと土生町第2会館の側に「地蔵堂」があります。まっすぐ進んで水道道の信号を渡り葛城中学の前を右折。岸和田港塔原線に沿って山側に歩けば「矢代寸神社」が鎮座しています。
今回はできるだけ交通量の多い道路を避け、安全に楽しめるルートを選びました。遺された史跡はもちろん、田園風景や旧街道の趣を感じながら散策する、晩秋の一日をお楽しみください。

岸和田あ・ら・か・ら・と

会員 古門 秀子

ごより豆



味覚はいつかその故郷に戻っていくものらしい。まるで遠い日の記憶をまさぐように。

晩年の夫が懐かしんだ一品にこの「ごより豆」がある。岸和田(泉州)育ちなら頷く人も多いだろうが、ごより(五種の小魚の干物)すらあまり目にしなくなった今、調理法もその名前すら定かでない。

だが、今でもどこかの食卓に、大鉢に盛られた堅豆が置かれているとしたら、それは祖たちの味に繋がる家族の風景であるかの分らない。

【材 料】	大豆	2カップ
	ごより	1カップ弱
	だし汁	3カップ
	醤油	大さじ 3
	砂糖	大さじ 5
	みりん	大さじ 2
	酒	大さじ 1

【作り方】

- 1 ごよりを弱火で煎る。
 - 2 洗った豆を分量のだし汁、調味料とともに火にかけて、沸騰したら1も加え弱火でゆっくり煮つめる。
- (注) 大豆の種類によっては水の吸収が違うので、水、調味料の加減を見ながら煮る。

Cultural Hot Spot In Kishiwada

海外でも披露される
天使のハーモニー
岸和田市少年少女合唱団

週に1度、小学校3年生から高校3年生の団員たちが「マドカホール」で練習を行い、市内や近隣地域だけでなく、全国各地のコンサートにも参加。そのうえ、ヨーロッパ公演も行う実力を持つ「岸和田市少年少女合唱団」。そんな合唱団の設立から現在に至るまでの経緯や活動内容などをうかがってきた。



代表・事務局長の
塚本敬子さん

あくまでも楽しむことが理念

同合唱団の創設は1988年。チェコスロバキア（現・チェコ）の「プラハ少年少女合唱団」が岸和田を訪れたとき、共演するためのメンバーを募集し、そのときに特別編成された合唱団が前身。「いったん解散されたんですけど、せっかくだからと団員が再び集まったのがきっかけです」と設立の経緯を説明してくれたのは代表で事務局長の塚本敬子さん。

創立当初のメンバー約80人。その後、年に1回の定期演奏会のほか、各地で可憐な歌声を披露してきた。「けれど、コンクールなどには参加しませんし、合唱連盟といった上部団体にも所属していません。その理由は、週1回ではコンクールに向けた練習が行えないこと。また、歌うことが好きになる、音楽本来の楽しさを与えるという意義が損なわれる恐れもあるからです」

つまり、「競い合うのではなく、あくまでも楽しむことを重視する」というのが理念だと、塚本さんは話す。

4年に1度の欧州公演

毎週日曜日、午前9時から12時の通常練習のほかに、5月の連休中には合宿も実施。そして、4年に1度は海外で演奏



自泉会館での演奏会

会を開催。1回目はスペイン、2回目からはドイツでも公演。子どもたちは現地にホームステイをして、異文化に触れることで多くのことを学んできた。

保護者の方々は「行く前と帰ってきた後では、いろんなことの価値観が変わったように見える」「体験したことがいつまでも残っているようで、今でも普段の生活の中で話している」「親元を離れて生活したことで自信が付いた」と話し、また、合唱団に入団したことについては「同級生ばかりではなく、いろんな世代の人と交わることで見識が広がった」「多くの人と多くのものを共有し、ハーモニーを奏でる喜びを感じている」「のびのびと練習しているせいか、素直な感情表現や行動ができるようになった」と子どもたちの成長を口にする。

自信と誇りを持った子どもたち

現在、少子化の影響もあり、入団者数は年々減少。10数年前のピーク時には110名が在籍していたものの、現在団員は約半分の55名。

「子どもたちは本当に素直で良い子ばかり。そして、自分の気持ちを存分に出せる場でもあるので、とにかくこのままの状態を維持したい。そのためには入団者数を増やし、余裕のある運営にしたいです」と塚本さん。

「とにかく、多くの人に聴きにに来て欲しい。そこから認知度も高まって、団員確保に結びつけば良いかなとも思っています」

岸和田という土地柄のせいか、市民のクラシックに対する理解は浅い。それでも団員たちは様々な体験を経た誇りと自信を持って、練習に励んでいる。55人の子どもたちが奏でる天使のハーモニー。一度耳にすれば深い感動を覚え、成長の証も窺えるコンサートへ、是非とも足を運んでいただきたい。

（取材・文 歯黒猛夫）

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第26回自泉フレッシュコンサート ～真夏のさわやかコンサート～

平成23年8月7日(日)に、ピアノとソプラノデュオのコンサートを自泉会館ホールで実施し、52人の入場者がありました。



〈皆さんの声〉

- こんな近距離で聞けることは滅多にないので、声をかけてくれた友人に感謝です。
- 孫を相手に忙しい日々の中、素敵なコンサートでほっとしました。
- クラシックでおしゃれな建物の中でのコンサートを楽しむことができ良かったです。

会員対象事業「薬膳料理講習会」

～夏バテを回復させる薬膳料理～

平成23年9月12日(月)に、浪切ホール4階の食の交流室において、こかどひでこ氏を講師に迎え、料理講習会を実施しました。当日は、15人の参加がありました。

〈皆さんの声〉

- お腹いっぱい、美味しくいただきました。
- 皆でわいわいお料理するのは楽しいです。
- 年に一度は、この講習会を実施して欲しいと思います。



音楽世界旅 VOL.6 インド編

平成23年9月24日(土)にレクチャー・コンサート「古典舞踊と古典音楽 北インド芸術の精髓」を実施し、73人の入場者がありました。



〈皆さんの声〉

- 身体全体を使った手振り身振りのハードな舞。まるで歌舞伎をインド調に仕上げたようでした。
- 異文化を垣間見ることができて、とても良かったです。
- パーンスリーの音色が、何故か懐かしさを感じたのは不思議です。とても良い一日でした。

能楽へのいざない「片山九郎右衛門 能の世界」

平成23年10月21日(金)に、杉江能楽堂で能「船弁慶」後半部分の舞と楽器の説明等の催しを実施し、137人の入場者がありました。

左のシテ方は、当日の来場者



〈皆さんの声〉

- 舞を始めとして、楽器の説明、能のお話、衣裳の説明、謡の指導、全て良かったです。
- とても能楽が身近に思え、楽しかったです。
- 素晴らしい能舞台ですね。今後も活用して欲しいです。

岸和田ゆかりのソリストを集めて vol.4

平成23年10月22日(土)に、岸和田ゆかりの音楽家で、第一線で活躍されている先生方の演奏会を自泉会館ホールで実施し、78人の入場者がありました。



〈皆さんの声〉

- 親しみやすい曲と、雰囲気の良い会場と一流のソリストたちの生演奏が聴けてとても良かったです。
- 子どもも楽しめる曲があって良かったです。
- 日本の懐かしい曲などを聴かせてもらえて、あきませんでした。

蓄音機を使った昭和初期のレコードコンサート ～歌謡曲からオーケストラまで～

平成23年10月26日(水)に、昭和初期に製作されたアメリカ製の蓄音機とSPレコードを使ったコンサートを自泉会館ホールで実施し、49人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 貴重な手回し蓄音機、貴重なレコードのSP盤、針の響きも懐かしく、当時は偲びながら聞きました。
- やっぱりアナログはいいですね。今のデジタルサウンドより聞いていて、想像力が広がりました。



岸和田文化事業協会の事業 Information

蓄音機を使った昭和初期の レコードコンサート vol.2

昭和初期の蓄音機で、昔懐かしいSPレコードの音色を聴いてみませんか。

日 時:平成23年12月14日(水)午後7時~8時
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:無料 (当日先着50名まで)

第28回自泉フレッシュコンサート ~名曲を訪ねて~

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた
新人演奏家等によるコンサート。

日 時:平成23年12月17日(土)午後7時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:一般前売 1,200円
 会員前売 1,000円(当日各200円増)
出演者: 矢野 勇志(テノール)
 川浦 千草(ピアノ)

自泉ジュニアコンサート

日 時:平成24年3月4日(日)午後2時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール

【募集要項】

- ・ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器に限る。
(複数名での演奏も可、ただしコーラス等は不可)
- ・対象年齢:小学生~高校生・参加費無料
- ・出演の為にオーディションがあります。
(平成24年1月12日(木)午後6時~または、1月14日(土)午後1時~のどちらか)
- ・氏名・学年・住所・電話番号・オーディションの希望日をお書きの上、12月15日(木)までにFAXでお申し込みください。
お申込みいただいた方には、12月27日(火)までにオーディションの時間等ご連絡いたします。

【申込み・問い合わせ先 岸和田文化事業協会まで】

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

出演者募集!

岸和田文化事業協会10周年記念事業

岸和田ゆかりの画家 日根対山・小川翠村展

岸和田市にゆかりの深い江戸時代後期に活躍した文人画家の日根対山及び大正から昭和の時代に活躍した日本画家の小川翠村の作品展を開催します。また、二人の生い立ちや岸和田とのかわり、画風や評価などについての講演会も合わせて開催します。

◆前期 日根対山展
日 時:平成24年1月9日(月・祝)~15日(日)
 午前10時~午後5時 ※1月10日(火)は休館日

◆後期 小川翠村展
日 時:平成24年1月25日(水)~29日(日)
 午前10時~午後5時

会 場:岸和田市立自泉会館展示室
入場料:無料

◆講演会 「日根対山の作品と足跡」
 大阪経済大学教授 長田寛康氏
 「小川翠村の画業について」
 兵庫県立近代美術館学芸員 西田桐子氏

日 時:平成24年1月9日(月・祝)午後2時~午後4時
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
参加料:無料(定員100名、先着順)
申込方法は電話、FAX、Eメールで岸和田文化事業協会(自泉会館内)へ
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

華麗なる饗宴 Vol.1 “美しく燃え” in自泉

日 時:平成23年11月22日(火)午後7時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:1,000円

出演者: 道下佳世(ピアノ) 松田淳一・田端香澄(ヴァイオリン)
 植田延江(ヴィオラ) 日野俊介(チェロ)

演奏曲: ピアノ/四重奏曲第1番(フォーレ)・ピアノ/五重奏曲変ホ長調(シューマン)他

平成23年度(平成23年4月~平成24年3月)

会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine vol.33

発行:岸和田文化事業協会
発行日:2011年11月5日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・小島栄子
 齒黒猛夫・藤田保平・本郷元子

編集後記...

秋が深まってきました。

この秋、当事業協会では「音楽世界旅・インド編」「能楽へのいざない」「岸和田のソリストを集めて」「自泉フレッシュコンサート」、会員向け「薬膳料理講習会」と多彩な事業を開催しています。皆さまは楽しんでいただけましたか?

文化芸術を愛する人たちの、奏で・演じ・創り・鑑賞する等の一連の活動が、互いに響きあひ渦を巻くように拡がっていくことを願い、広報部会はますます充実した情報を発信していこうと張り切っています。皆さまの情報をお寄せくださるようお待ちしております。(紙野)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索